

競技規則の要点

1. 競技場について

- ① 塁間は、16mで実施する。
- ② コーチーズサークルは、設けない。(コーチャーは立てない)

2. 用具について

- ① 試合に使用する用具(ボール・バット・バッティンググローブ)は主催者で用意する。(グローブは、各自で用意する。金属スパイクは禁止。)
- ② ボールは、ケンコーティールボール11インチゴム製を使用する。
- ③ バットは、SGマーク製品を使用する。サイズは、S・M(小学生用)の二種類とする。但し、従来の製品(サイズS・M)も使用可能とする。

3. チーム編成とプレイヤー

- ① プレイヤーは、10人とする。エキストラヒッター(打つだけの選手)は採用しない。
- ② 基本的守備位置については、競技規則で確認しておく。
- ③ メンバー表の交換は、特に行わない。
- ④ 背番号を必ずつけて、メンバーが確認できるようにする。

4. 試合について

＜予選：リーグ戦&トーナメント 決勝：トーナメント方式で実施＞

- ① 試合は、3イニング(30分)とする。ただし、30分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない(時間制限により2イニングの場合もある)。
- ② 決勝トーナメントは、2イニング(20分)とする。ただし、20分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない。
- ③ 勝敗が明確になったとき、試合途中で攻撃を省略することもある。
- ④ <リーグ戦> 勝ち点制を実施する。勝ち：2点 引き分け：1点 負け：0点 勝ち点が並んだ場合は、タイブレーカールール(満塁：走者8、9、10番打者、打者3人：1～3番打者)を行う。本ルールで決着がつかないとき、各チーム4人(4～7番打者)で抽選を行い、勝敗を決める。
- ⑤ <トーナメント戦> 試合が終了した時点で同点の場合は、タイブレーカールール(満塁：走者8、9、10番打者、打者3人：1～3番打者)を行う。
 - 予選トーナメント → 本ルールで同点の時は、各チーム4人(4～7番打者)で抽選を行い、勝敗を決める。
 - 決勝トーナメント → 本ルールで同点の時は、勝敗が決まるまで、タイブレーカールールを適用する。

※決勝トーナメントに進出できる8チームは、A～F各ブロック1位の6チーム。加えてA～F各ブロック2位の2チームとする。この2チームは第5試合後の抽選で決定する。

- ⑥ 2019年度文部科学大臣杯争奪「第22回全国小学生（3・4年生）ティーボール選手権大会の守備位置は、昨年同様に打者がボールを打つまで、内野ゾーンに入ることができません。本大会も、このルールに準じて実施します。

- ⑦ 全員攻撃制で実施。

- ・両チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代する。
- ・残塁の走者は次の回に受け継ぐことができる。（最終回を除く。）
- ・1回・2回の最終バッターるとき、フライを打った時やフォースプレーが行われた場合、塁上のランナーはホームインできない。
- ・最終回最終バッターるとき、通常のアウトのほか、ボールを保持した守備者が本塁ベースを踏んだ瞬間に試合（イニング）終了とする。

- ⑧ 次の試合のチームは、前の試合が終了するまでに移動や準備を完了しておく。
⑨ 試合を円滑に進めるため、フィールドイングとボール回しは禁止する。

5. 打者（バッター）についての主なルール

- ① 「プレイ」の宣告後、10秒以上経過したとき、ストライク。
- ② 打つときに、軸足を2歩以上動いたとき、ストライク。
- ③ ボールに触れずにバッティングティーを打ったとき、ストライク。
- ④ バントは禁止。バントやプッシュバントと球審が判断したとき、ストライク。
※ 故意に、スウィングを遅くしたときもストライク。
- ⑤ 2ストライク後、打球がファールボールとなったとき、アウト。
- ⑥ バットを放り投げた場合、球審の判断でアウトにすることもある。

6. 走者（ランナー）についての主なルール

- ① 離塁は打者が打撃した後とし、違反した場合はアウトになる。
- ② 盗塁は禁止。（タッチアップは認められる。）
- ③ スライディングは禁止、すべての塁で駆け抜けを認める。ただし、進塁の意思があると判断された場合はその限りではない。
- ④ インフィールドフライはなし。

7. ボールデッドについて規定

- ① プレイが一段落した段階（守備側の内野手がボールを保持し、攻撃側の走者が進塁の意思を見せずに止まったとき）で、ボールデッドの判断をする。
- ② ボールがファウルラインの外に出た時は基本的にはフリー。ただし、状況により審判が判断することもある。

- ※ その他のルールについては、「公認ティーボール規則」に準じて実施。
ただし、ティーボールの理念から、状況に応じて特別な配慮をすることもあります。
その場合は、審判の指示に従ってください。